



詩の普及・発展

さかもと うめ
坂 本 梅

(91歳)

住所

仙北郡西木村

昭和22年豊岡郵便局開設と同時に同郵便局に勤務する傍ら、豊かな地域の自然や人間性を感じ豊かに詩的感覚で描写し、詩集全9巻を発行している。

その詩集は私たちの暮らしの有様を見つめ、働く者に夢を、弱い者には勇気と感動を感じさせ、特に「風葬のむら」の詩集は全国でもあまり例のない人を弔う習慣を的確にまとめ、今はなくなったその弔いを語り継ぐ素材となり、豊かな心ではぐくまれる農村文化の向上発展に貢献している。

近年でも、生と死、家族や福祉について深い思索を巡らせた「星座へ向かう列車」、
「いろはにほへどちりぬるを」を90歳を前に発表するなど、鮮烈な詩魂は現世の力強いメッセージとなっている。



金属工業の振興・発展

ふじ 藤 さわ 澤 れい 禮 じ 治

(81歳)

住所
秋田市

昭和26年に千代田興業株式会社を設立し、昭和40年に秋田市工業団地協同組合に加入して以来、昭和46年に同組合理事、昭和62年には理事長に就任し、永年にわたり指導、組織強化に努めるとともに、組合員の新規加入、工場棟の建設を推進し、産業の振興に尽力した。特に、昭和48年のオイルショック、円高不況など組合員を取り巻く環境は非常に厳しく、組合員の中には倒産・廃業等、極めて不幸な事態に追い込まれる時期もあったが、卓越したリーダーシップを発揮し、組織の舵取りや組合員の救済に日夜努力し、県内地場工業団地を代表する今日の同団地に発展させた。

また、全国工場団地協同組合連合会、全国鐵構工業連合会、日本溶接協会秋田県支部、東北及び県内機械金属関係団体などの要職を長年にわたり歴任し、機械金属工業の地域産業としての地位確立など、県内外の機械金属工業界の振興・発展に貢献しているほか、労働福祉の充実に尽力している。



地域医療の推進

あきもと たつじ
秋元 辰二

(77歳)

住所

秋田市

昭和32年に秋田市土崎港に医院を開業以来、地域の保健医療の充実に努め、昭和51年からは同地域の小中学校医として学校保健にも尽力している。

昭和39年から平成12年まで、秋田県医師会の秋田市選出の代議員を務め、そのうち4期8年間は議長として在任し、平成2年から4期8年間は県医師会を代表して日本医師会代議員を務めるなど、県医師会や日本医師会の活動に参画している。

また、秋田市医師会においては、秋田市医師会補助看護婦養成所や准看護学院の創設に尽力するなど、看護要員養成に多大な功績を残した。

昭和32年から地域の学校のPTA活動に参加し、秋田県PTA連合会会長を務めるとともに、「秋田県よい本をすすめる会」を創設し、毎年良書を推奨し県内小中学生の読書力向上に貢献している。さらには、土崎小学校に30年間図書を寄贈し、秋元文庫として親しまれ、学童の読書力向上に寄与している。

昭和54年からは保護司として、昭和62年からは秋田少年鑑別所の医員として更生保護に努めているほか、昭和59年に「秋田市の文化を育てる市民の会」の創立に関与し、現在は会長として秋田市文化団体連盟と連携を深めながら、芸術文化の振興に寄与する会員の活動に対して助成金を交付するなど、地域に根ざした文化活動の振興に尽力している。



書道の普及・発展

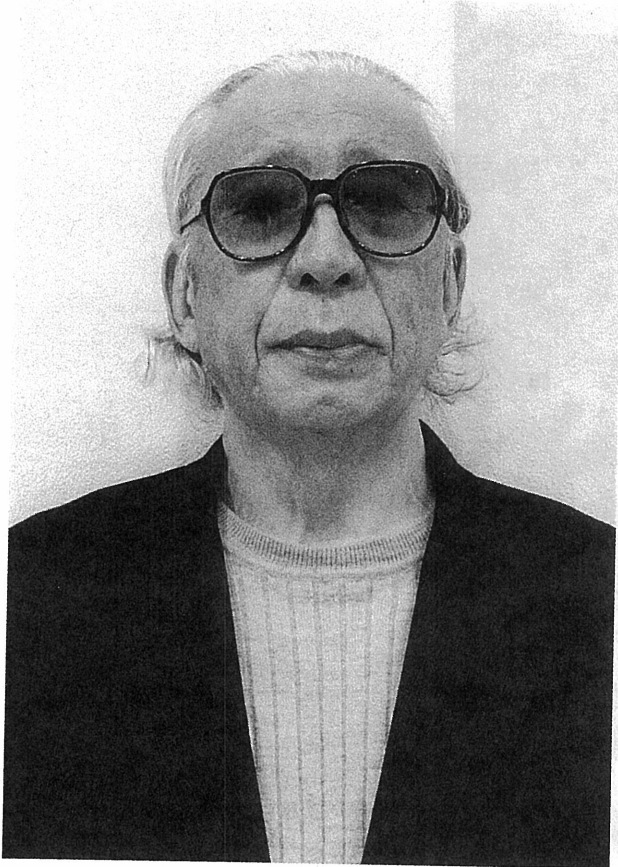
さ が しょう じ
嵯 峨 昭 治

(75歳)

住所
秋田市

昭和38年、秋田市書道会の設立当初から現在までの38年間にわたり、後進の指導、育成に尽力し、昭和57年からは会長として現在まで書道の普及・振興に大きく貢献している。

また、県展特選、日展入選、秋田書道展審査員等、秋田を代表する書家として活躍するとともに、全県にわたり書跡資料調査を重ね、郷土の先覚遺墨研究にも取り組み、昭和45年、秋田県明治100年記念事業「秋田の先覚3」に赤星藍城を執筆、昭和58年から18年間、秋田市書道会展に山口蘭溪、大窪詩仏ら「郷土の先人シリーズ展」を併催、作品集を刊行し、先人の遺業の発掘・研究・顕彰に大きく貢献するとともに、平成4年からは秋田市史編さん専門委員として執筆を行い、秋田の書道史を体系づけて発表・出版するなど、学術的に大きな功績を挙げている。



演劇の普及・発展

さ とう なが とし
佐 藤 長 俊

(75歳)

住所

能代市

昭和22年に演劇活動に参加し、劇団「わかもの座」、劇団「北芸術座」に所属して本格的な演劇活動を始め、昭和25年には、芸術文化関係団体の結集を目指して文化団体連絡協議会（能代市芸術文化協会の前身）の結成に参画し、組織の育成強化に努め今日の発展の基を築いた。

昭和55年には、第1回「能代ミュージカル」創設に参画し、脚本、演出を担当するとともに、参加団体の育成指導に努め、昭和59年からは能代ミュージカル制作委員会委員長として、他市町村からも依頼を受けてミュージカル制作公演の相談や指導に尽力している。

また、平成5年に劇団「能代小劇場」を結成、古典的な作品や優れた劇作家の作品を毎年公演して高い評価を得ており、鑑賞団体誕生や高校演劇にも影響を与えるなど演劇界の活性化に尽力している。

さらには、平成13年「能代ミュージカル」20回記念公演とともに、東北ミュージカル・シンポジウム「おらほのミュージカル」を開催し、東北一円の関係者から賞賛の声を得るなど、地域芸術文化の活性化や今日の隆盛に貢献している。



民謡の普及・発展

さ さ き つね お
佐 々 木 常 男

(67歳)

住所
秋田市

昭和29年から、NHKのど自慢を始め民放の民謡コンクールなどに出場して数回にわたり優勝を果たし、昭和33年からNHK秋田放送「民謡おさらい教室」専属講師の依頼を受け本格的に民謡界入りしている。

昭和41年には「秋田民舞団五星会」を結成し、北海道から本州の南端まで民謡巡業を行い、秋田民謡の発掘、普及活動はもとより、巡業先の各地の民謡などを幅広く習得し、民謡界にはなくてはならない存在となっている。

昭和46年からは日本コロムビアレコード専属歌手として活躍するとともに、昭和55年には(財)日本民謡協会公認教授、昭和57年には同協会秋田県連合委員長を歴任し、全国の民謡界第一人者として認められている。

また、昭和57年からは、秋田県民謡協会公認資格認定制度を発足させ、初代検定委員長として秋田県内の民謡指導者育成と秋田民謡の保存、伝承に尽力し、民謡全国大会では多くの歌い手に民謡日本一の栄誉を獲得させるなど、「民謡王国秋田」の名を全国に広めている。

このほか、平成4年から秋田市民俗芸能伝承館で開講している「秋田民謡講座」での秋田民謡の指導、さらには全国各地に秋田民謡教室を開講するなど、秋田民謡の普及・発展に貢献している。



女性農業者の地位向上

いとう さだこ
伊 東 サダ子

(63歳)

住所
山本郡八竜町

農協の女性部を中心に長年にわたり活動しており、家計簿記帳の推奨に努め、記帳を通して女性の経営参画を促し、青色申告を普及させるなど、健全な農家経営の実現に尽力している。

平成元年に女性の経営参画と軽量野菜の産地化を目指したハウス1棟運動を進めるとともに、経営感覚や生産意欲を養うために、若い女性部員を対象にした「みどり会」を結成し、冬期の労働力の活用による冬期野菜の栽培技術の向上を図り、年間を通じた豊富な野菜生産の基礎づくりに貢献した。

また、平成6年に女性農業者で新たに結成された「まごころの会」の会長として、農協の農産物直売所「ドラゴンフレッシュセンター」の管理運営を行い、新鮮で安全安心な農産物の供給は地域住民の要望にも応えたものであり、売上げも全県でトップクラスに位置付けられるなど、その成果は高く評価され、県内外から数多くの視察研修者が訪れている。

平成11年には八竜町初の女性農業委員、平成12年からは秋田県女性農業委員協議会の初代会長を務めるなど、女性農業者の地位向上に尽力している。